わたしたちが参加できること

# 森づくりへの馳走（ちそう）

［ 森林ボランティア くらしと炭焼きの会 ］

森を育てることは
自分を育てること。
森を守り、育てるため
森林ボランティアが、
今日も森を馳走（ちそう）します。

この日伐ったのは、大雨の影響で倒れかけたカシの木。

堅く焼けるカシの木は、火持ちの良い炭になります。叩くとキンキンという金属音がするのは、焼くことで空洞になった内部に音が共鳴するためです。

## あなたも参加しませんか？

2019年1月、香美市土佐山田町大平の森で、炭焼き体験がおこなわれました。作業は、森の木の伐採からスタート。指導するのは、情報交流館ネットワーク構成団体のひとつである、森林ボランティア「くらしと炭焼きの会」のメンバーです。

「この森は、かつて、人々と密接にかかわる里山でした」。「くらしと炭焼きの会」代表の岡﨑正寛さんは説明します。

薪や炭などの利用が減少するとともに、森は放置されていきました。

森を放置すれば、大きく育つ木もありますが、大きな木に日光をさえぎられた小さな木は枯れてしまい、限られた樹種しか育たない森になります。それぞれ樹種ごとに木の実を食べに集まる昆虫や小動物の種類は違うため、偏った種類の生物しかいない森になってしまうのです。つまり、適度に木を伐ることが、結果的に樹種を増やすこととなり、森の多様性回復にもつながるのです。

## 炭はおみやげにお持ち帰り。

伐った木は素晴らしいエネルギー資源になるのだから、森の循環を促すためにも、もっとみなさんに活用してほしいと岡﨑さんは話します。実際に、焼いた炭を持ち帰り、自宅の七輪の燃料として活用している岡﨑さん。「季節の味覚を七輪で焼けば、格別に美味しく食べられるんだ。」とご満悦の表情です。他のメンバーも、下駄箱の脱臭炭や湿気とりなどに利用できて重宝しているといいます。また、ボランティア参加者には、毎回、お礼を兼ねて、炭をお持ち帰りいただくそうです。それを聞いて、俄然参加したくなりませんか？

また、情報交流館で「ピザ焼き体験」が開催されるときなど、窯の燃料としてこの炭が使用されているそうです。

「良い炭ができたときの達成感が、何物にもかえがたいご褒美なんですよ」。さっきまで、声を掛けづらいほど真剣に作業していたみなさんが、パッと振り向き、表情を明るく輝かせながら、岡﨑さんの言葉に何度も頷きます。

彼ら、森林ボランティアは、今日も森を馳走（※）します。

※馳走：走り回ること。奔走すること。

**［くらしと炭焼きの会］**
体験活動については、高知県立森林研修センター情報交流館までお問合せください。

**高知県立森林研修センター情報交流館**
TEL／0887・52・0087
https://www.k-kouryu.net/

取材の様子はこちらから→
you tube チャンネル もりりん

県内のボランティア団体の紹介をはじめ、県民参加の森づくりを支援するHPがあります。→ 森・ヒト・こうち応援ネット http://morihito.jp